

技術報告集によせて

「技術職員による技術報告集」を 1989 年に発刊して以来、今回で 29 回目になりました。例年開催（昨年は新型コロナウイルス感染拡大により中止）している技術発表会をまとめたものがこの報告書です。工学部技術部等の有志によりスタートしましたが、2008 年より主催を三重大大学とし、工学部のみならず、全学の教室系技術職員や事務部が一体となって実施しています。最初は小さな活動であったものが、着実に実績を重ね、ここまで大きく発展したことは関係の皆さんの努力の賜です。

三重大大学では、約 50 名の教室系技術職員が工学部、生物資源学部、医学部、教育学部、教養教育院及び学内共同利用施設等に在籍し、個々に専門的な技術をもって教育・研究支援に取り組んでいます。専門分野が異なる技術者が、お互いの考えや意見を出し合い、議論を交わすことが自らの知識や技術の向上につながり、組織の活性化にも結びつきます。

また、2016 年 4 月からは、これまで未組織となっていた医学部、生物資源学部、教育学部、教養教育院、地域イノベーション推進機構、総合情報処理センターに所属する教室系技術職員がまとまり自然科学系技術部が発足しました。すでに組織化されている工学部とフィールドサイエンスセンターの技術部との連携も更に繋がり、技術の向上、技術部組織としての活動等において成果が現れております。

今年度開催する技術発表会においても、学外から寄稿・報告がありました。東海・北陸地区から名古屋工業大学、静岡大学の職員がオンラインで発表することとなり、活発な技術交流や情報交換が行われるでしょう。

2016 年から始まった第三期中期目標期間も今年度で終わり、来年度からは第四期が始まります。国立大学法人においては、運営費交付金の減額や人件費削減など引き続き厳しい教育研究の環境がありますが、それを乗り越えた本学技術職員の積極的な自己研修への取り組みは、「人財」を活かし、新たな独創性や創造性を生み出す活動に結びつくものと心強く思っております。

大学において教育・研究に携わる専門技術をもった技術職員は、教員・事務職員同様に無くてはならない存在であります。本報告集が、大学における技術職員の重要性を学内外に発信するものであると同時に、多方面の皆様にご一読の上、忌憚のない意見をいただければ幸いです。

2022 年 2 月

三重大大学長 伊 藤 正 明